

龍
都
里
伎

水
色
影
鴉

特別
79
3896



門 9
號 3896
卷



影繪於都里伎叙

凡漢士の滑稽ハ我朝の俳諧と一也故姚察曰滑稽猶俳諧也
諧語骨利其知計疾出乃而謂滑稽也此滑稽俳諧ハ
心裡小言のれハ貌也容の是は言なり影繪ハ影の如く
るこの滑稽者ハ史記曰私求大陰人嫪毐以為舍人時縱
倡樂使毒以其陰開相輪而行云是其大陰相の端
を打々け踊まのり陰の序子小言なり松茸の形の如く足る如

昭和二十八年
九月二十五日
購求

座中^{ざちゆう}舉^あ真^まみ^み入^いり^いと。呂^{りよ}不^ふ韋^{わい}が。おひつたの趣^{しゆ}向^{かう}へ。則^{すなは}景^{けい}繪^え
の監^{けん}觴^{さう}なり。とり人^{ひと}ありき。予^よ啜^する^ると。阿^あ蘭^{らん}陀^だ人^{にん}より高^{かう}賈^がせ
好^おんで市^{いち}舶^{ぱく}と諸^{しよ}國^{こく}を通^{つう}じ。省^{しやう}顧^こ廻^{わい}の酒^{しゆ}席^{せき}小^{せう}茶^{ちや}支^し吾^ごこれ
斯^すりて。此^{こゝ}彩^{さい}繪^えを中^{ちゆう}かぐ。孔^{けう}方^{ほう}貴^きぶ小^{せう}客^{かく}歎^{たん}待^{たい}巧^{かう}と。
一^{いつ}年^{ねん}長^{ちやう}崎^きより。強^{きやう}飯^{はん}のきたる序^{しよ}小^{せう}此^{こゝ}一^{いつ}書^{しよ}と。その仔^{しやう}細^{せう}を既^{すで}
く。ま^まつと頗^{ぜん}於^お都^と利^り記^きと。胸^{むね}に返^{かへ}びし標^{ひょう}題^{だい}と。その俵^{はたけ}又^{また}
ち^ちやくする事^{こと}とはなむ。

文化庚午蒼陽

東都逸民 十返舎一九識(直)

附言

た^ため^め小^{せう}世^{せい}間^{かん}通^{つう}用^{よう}のありぬを。記^きよりのハ其^{その}浅^{せん}さ
より深^{ふか}さよ導^{どう}くの結^{むす}締^ぢなり。よろづの業^{わざ}ハ半^{はん}別^{べつ}よりそよりを。
その奇^きよ至^{いた}り妙^{めう}とゆるとるれば。普^ふく見^み女^{によ}の。あはるんでもむらひと。さ
むづりく。ちる尺^{しゃく}のなる。
世^{せい}中^{ちゆう}よあつたそののハ悉^{しつ}くそのほさふ搜^{そう}る術^{じゆつ}あり。既^{すで}傳^{でん}るじ。ハおこるひ
が。たりのハ仍^{なほ}その仕^し法^{ぽう}秘^ひ変^{へん}と並^{なら}べそ。好^{こう}士^しの為^{ため}よ。胡^こよとる。ま^まつらべ
ち^ちやくし。これと秘^ひつらふ。ねとを。と搜^{そう}羅^らして。お締^ぢま^まつ。茶^{ちや}の口^{くち}を。ひ
酒^{しゆ}のち。者^{もの}ふり。他^た者^{もの}の。あはる。と。ハ若^{わか}い。白^{しろ}の。に。と。ま^まく。むら。ひ。と。むら。ひ。の。じ。



斜陽相臨樹蘭
筵上山泛湖中
人影動靜頓画
形容交如雲烟

崎陽圓山
寄合衝之
光景



標記

- 簪 えび
- 火爐 ひわち
- 提燈 ていとう
- 石燈籠 いしとうろう
- 蛇 へび
- 蝦蟇 かみゆき
- 杜若 かきつむぎ
- 自在釜 じざいがま
- 竹馬 たけうま
- 三階松 さんがいまつ
- 雨龍 あめりゅう
- 華表 けりの
- 鶯 ういす
- 長脚嶋 ながあしがしま
- 長臂嶋 ながひがしま
- 鶴 つる
- 切子燈籠 きりことうろう
- 橋 はし
- 蜻蛉 せみむし

上件

○ 抵子

古今注曰秦穆公以象牙為之

敬王以玳瑁為之

始皇金銀作鳳頭以玳瑁為脚蹄曰鳳釵

○ 火爐

三才苗會云火爐俗云火鉢也其製不一可以禦寒可以焙物

コレハ三才ノ苗會ニ火爐ガ俗ニ火鉢ナリケドモ其ノ製ハ不一ニシテ禦寒ニ用ヰルモノハ火鉢トシテ焙物ニ用ヰルモノハ火爐トシテ呼ビラレリ



モシヤキノ柄ノ物トシテ小童等ノ遊びモノトシテ用ヰルモノハ火鉢トシテ呼ビラレリ

疊等詞曰 火鉢ガ俗ニ火爐トシテ呼ビラレリ

○ 杖以杓子為梢箕子
 えがき 杖は杓子で梢は箕子



○ 杖以杓子為梢箕子

○ 火鉢以頭為藥罐
 いふち 火鉢の頭を薬罐として用いる



○ 提燈
 提燈の形

○ 提燈
 提燈の形 提燈の形 提燈の形

○ 石燈籠
 或人石をさうろうと繩を
 繋ぎ又竹やぶらふその繩
 をさうろうと傳へ曰
 隨分ほそくさうろうとゆ
 り石とさうろうの中やん
 まりてゆきびとさうろうと
 のぐるあり傳へ是の其居の石とさうろうの
 ところなりと



○ 提燈
 和漢三才圖會云和之
 製提燈其小者曰酸
 漿提燈亦以板為蓋俗
 呼曰箱提燈張子曰弓
 張提燈

○ 提燈
 提燈の形 提燈の形 提燈の形

角醜圖の如し



「モシ此の如き人ありては、其の手足を縛りて、之を懸るべし。此の如き人ありては、其の手足を縛りて、之を懸るべし。此の如き人ありては、其の手足を縛りて、之を懸るべし。」

「此の如き人ありては、其の手足を縛りて、之を懸るべし。此の如き人ありては、其の手足を縛りて、之を懸るべし。」

竹馬



山海經云柔利国在一目国之東与一臂国同一足也竹馬音相似

「竹馬、耳と云々。此の如き人ありては、其の手足を縛りて、之を懸るべし。此の如き人ありては、其の手足を縛りて、之を懸るべし。」

鶯

諸山記云 鶯如鴝鵒 而 色 蒼 每至正 二月鳴曰 春起至三 月止鳴曰 春去採茶 之候也呼為 報春鳥



「此の如き人ありては、其の手足を縛りて、之を懸るべし。此の如き人ありては、其の手足を縛りて、之を懸るべし。」

鶯のあまのりせし 雪消ぬ やアさといふととあすま

茶臼

おれがゆふのしやうとていふまじいおれを
やぶらりありあつたおれを一本づつおれ
まじいおれをなすおれをいふまじいおれ
おれをいふまじいおれをいふまじいおれ

時針

あつたおれを
いふまじいおれ

おれがゆふのしやうとていふまじいおれを
やぶらりありあつたおれを一本づつおれ
まじいおれをなすおれをいふまじいおれ
おれをいふまじいおれをいふまじいおれ



ハテがつて人のやねを
いふまじいおれ
おれをいふまじいおれ
おれをいふまじいおれ

おれがゆふのしやうとていふまじいおれを
やぶらりありあつたおれを一本づつおれ
まじいおれをなすおれをいふまじいおれ
おれをいふまじいおれをいふまじいおれ

孤松

孤松の松と
いふまじいおれ
おれをいふまじいおれ

口上

おれがゆふのしやうとていふまじいおれを
やぶらりありあつたおれを一本づつおれ
まじいおれをなすおれをいふまじいおれ
おれをいふまじいおれをいふまじいおれ

版元



十返舎一九

おれがゆふのしやうとていふまじいおれを
やぶらりありあつたおれを一本づつおれ
まじいおれをなすおれをいふまじいおれ
おれをいふまじいおれをいふまじいおれ

あざりけき
魚
あきしる
磯
磯をよは
一入がよき
並松の松

○ 西はつてん

るんとあふのりく、あまのりやうのまをうし、のり
かのとあふのりく、あまのりやうのまをうし、のり
らへるあふのりく、あまのりやうのまをうし、のり
えどがさう、あまのりやうのまをうし、のり
あまのりやうのまをうし、のり

淮南子曰

牛哀ト云

者化シテ虎

トナル又郡

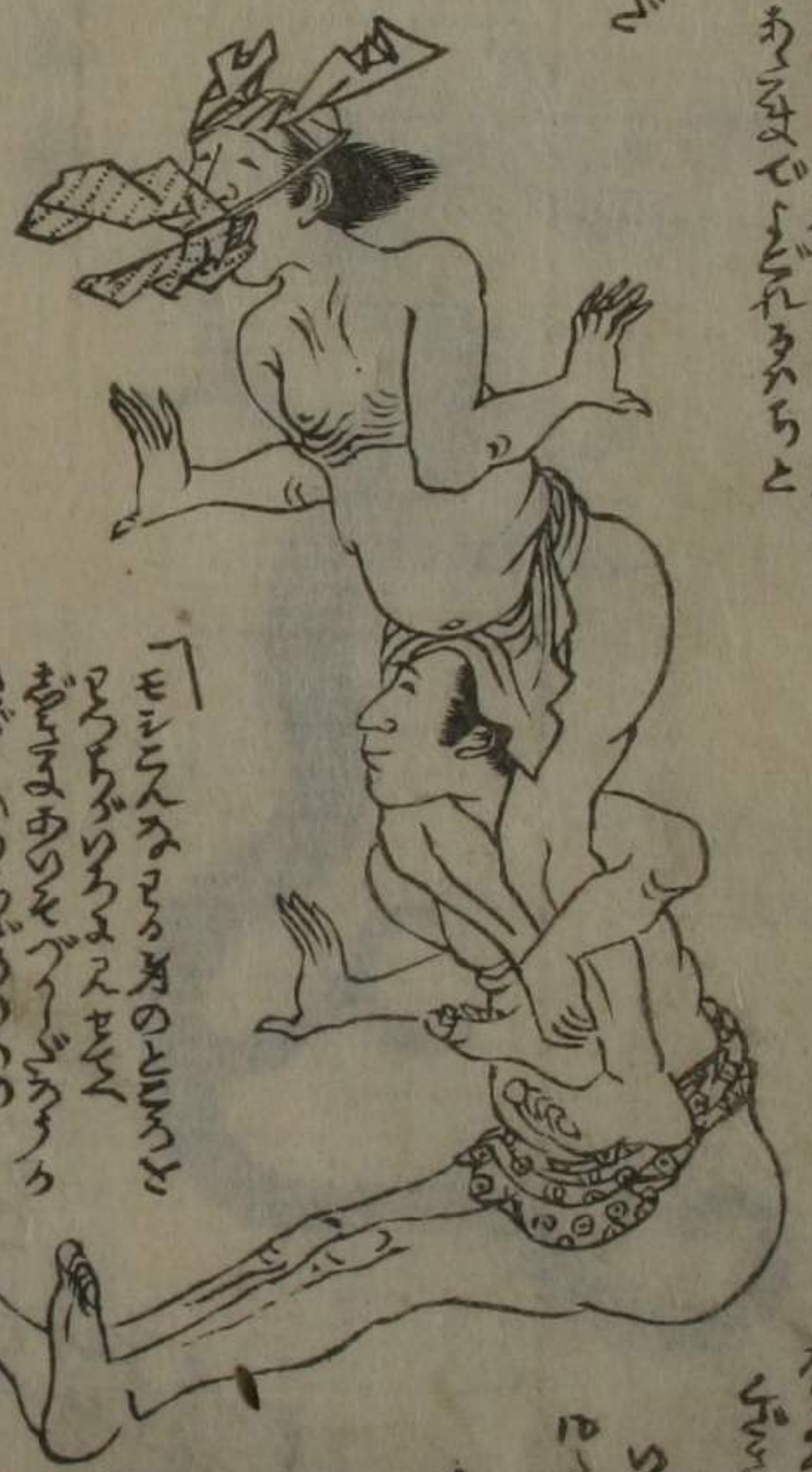
國志曰藤州

ノ夷人往往ニ

軀ニ化ス軀ハ小虎ナリ

其外唐書廣州記等ニモ

人ノ帛ト化スル者ヲ記ス今此二人ノ螭龍ト変スル一無ニシモ非ズ



モシと云ふ、あまのりやうのまをうし、のり
あまのりやうのまをうし、のり
あまのりやうのまをうし、のり
あまのりやうのまをうし、のり
あまのりやうのまをうし、のり

えんかやぶりせりて、あまのりやうのまをうし、のり
あまのりやうのまをうし、のり
あまのりやうのまをうし、のり
あまのりやうのまをうし、のり
あまのりやうのまをうし、のり

あまのりやうのまをうし、のり
あまのりやうのまをうし、のり
あまのりやうのまをうし、のり
あまのりやうのまをうし、のり
あまのりやうのまをうし、のり

○ 鶴

蓬萊の山に

之の鶴

舞の鶴

鶴のつらみ

めでこのりらる

千鶴巻三陀羅



○ 岐里古

和漢三才圖會云岐里古燈籠聖靈
祭等用之所飾紙燈籠甚華美ナリ

あまのりやうのまをうし、のり
あまのりやうのまをうし、のり
あまのりやうのまをうし、のり
あまのりやうのまをうし、のり
あまのりやうのまをうし、のり

あまのりやうのまをうし、のり
あまのりやうのまをうし、のり
あまのりやうのまをうし、のり
あまのりやうのまをうし、のり
あまのりやうのまをうし、のり

和歌所稱
加外呂布
若遊絲一名陽焰
凡春日映屋
檐而物閃閃
無定象以皆
雷光是也
非蜻蛉



えんがうのうげろふら
えんがうのうげろふら
えんがうのうげろふら
えんがうのうげろふら

十返舎一九

田舎言世集
芝居言世集
芝居言世集
芝居言世集

作者

十返舎一九

画工

喜多川月磨

筆耕

伯樂街

鈴木武笏

一九先生背長昂名伍郎八
先生則稱十返舎大人蔭而與一九目謂呼捨蓋
先生之其實也愆心漫々而以用竹把之書印故
若有金談命則可知有融膏坊丹項堂裏也爾云

榮邑堂醉中寢轉誌

仕^え之^の嶋^し土^ち産^{さん}後^ご編^{へん}

返^{へん}舎^{しゃ}一^{いつ}九^く作^{さく}

全^{ぜん}二^に冊^{さく}出^{しゅつ}

金^{きん}昆^{こん}羅^ら諸^{しよ}

續^{ぞく}膝^{ひざ}栗^り毛^け初^{しよ}編^{へん}

同^{どう}作^{さく}

全^{ぜん}二^に冊^{さく}出^{しゅつ}

岐^き蘇^そ街^{がい}道^{だう}

續^{ぞく}膝^{ひざ}栗^り毛^け二^に編^{へん}

末^ま末^ま春^{はる}

出^{しゅつ}版^{ぱん}

他^た者^{しや}の^の街^{がい}道^{だう}を^を通^{つう}行^{ぎやう}す^すハ^ハ二^に十^{じゆ}ヶ^が年^{ねん}以^い前^{ぜん}の^の事^{こと}と^と今^{いま}悉^{しつ}く^く忘^{わす}却^{かえ}り^り是^{こゝ}を^を編^{へん}じ^じ便^{べん}り^り仍^{なほ}て^て前^{ぜん}年^{ねん}上^{じやう}京^{きやう}の^の序^{しよ}あ^ある^るを^をり^りて^て性^{しやう}外^{がい}と^とふ^ふま^まの^の街^{がい}道^{だう}を^を歴^{れき}て^て擇^{たく}り^り己^{おのれ}の^の人^{ひと}を^を尋^{たづ}ね^ねて^て選^{せん}ぶ^ぶ一^{いつ}万^{まん}を^を委^{あづ}か^かす^すは^は是^{こゝ}を^を著^{しよ}さん^{さん}と^とを^を扱^{あつ}ふ^ふす^すの^の理^りと^とら^らは^は述^{じゆつ}ぶ^ぶる^るの^の事^{こと}なり

文^{ぶん}化^か庚^{かう}午^ご初^{しよ}陽^{やう}

江^{かう}戸^こ書^{しよ}林^{りん}

江^{かう}戸^こ通^{つう}油^ゆ町^{ちやう}

村^{むら}田^た屋^や次^じ郎^{らう}兵^{へい}衛^ゑ版^{ぱん}

